

緊張と喜びの新入園児16名



おめでとう!

平成29年度予算を可決……………②～③

村長提出議案・請願・陳情の審査・議員発議・臨時議会など……………④～⑤

総務・経済・議会改革特別委員会活動報告……………⑥

国道の安全対策を早期に／白馬高校支援……………⑦

一般質問・村政を問う……………⑧～⑮

わたしのひとこと(小林 慶士さん・福永 朋子さん)……………⑯

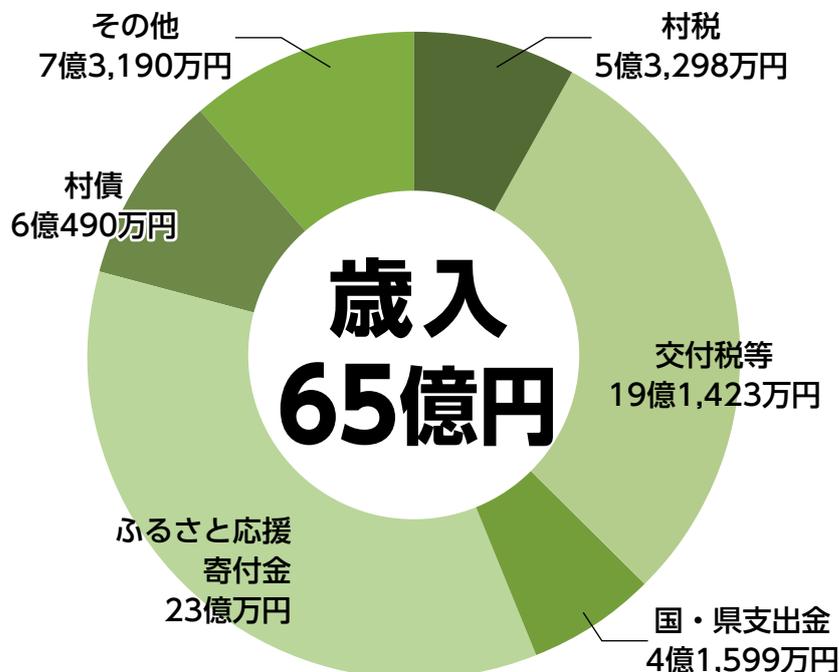
て暮らせる村づくりに!!

ピックアップ



入り凍り、そこにまた雨が降りどんどん傷んでいく。アスファルトの質は格段に上がっている。

白馬山麓施設組合負担金の増額の理由は新体制に向けて、職員を増やすための負担金が増額となった。今年6月から、事業用ごみ専用袋で持ち込むこととなるため、指導と中身のチェックなどで、数カ月は臨時職員を雇って対応する。



総務課

- ふるさと応援寄付金 23億円
- 役場庁舎 屋根防水改良工事 1,965万円
- 空き家等除却・再利用 6,137万円
- 下寺消防小屋改良・防火水槽修繕 470万円
- ★ 自然エネルギー活用事業 515万円
- ★ 役場談話室設置工事 410万円

住民福祉課

- 広域ごみ処理施設建設負担金 3億493万円
- 介護予防事業 985万円

観光振興課（観光商工係）

- 住宅環境リフォーム事業 300万円
- 千国駅トイレ等建築 1,213万円
- ★ 柵池ビジターセンター施設整備 4,544万円
- ★ 柵池自然園木道改良工事 5,910万円
- ★ 登山道改良調査 324万円

※ ★印のついている事業は、ふるさと応援寄付金を財源とした事業です。

平成29年度 予算を可決

(予算特別委員会で全員賛成)

元気で安心し

一般会計予算

観光振興課（農林係）

- 中山間地域直接支払 3,450万円
- 県営中山間地域総合整備事業負担金 2,100万円
- ★ 小規模事業者指導・起業支援 930万円

特産推進室

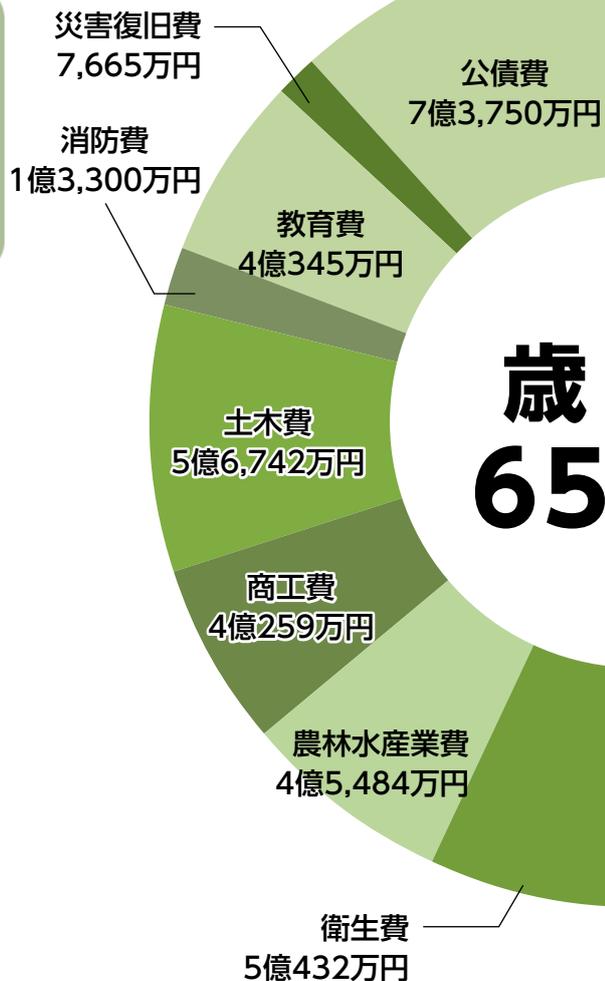
- 移住支援コーディネーター事業 245万円
- 加工貯蔵施設整備事業 2,678万円
- おたり版小さな拠点づくり推進事業 2,372万円
- 移住促進事業 1,482万円

建設水道課

- 除雪ドーザー購入 2,399万円
- 平倉トンネル他改良工事 1,200万円
- 村道柵池線3改良事業 2,000万円
- 橋梁点検事業 3,000万円

教育委員会

- ピステン購入 3,000万円
- 沓掛陸橋改良事業 1,800万円
- ★ 放課後児童クラブ事業(がったクラブ) 419万円
- ★ 白馬高校支援事業 2,384万円
- ★ 小中学校教育用タブレット購入 2,379万円
- ★ 中学生海外交流事業(台湾・NZ) 680万円



予算特別委員会での主な質疑

加工貯蔵施設について

29年度設計、30年度工事施工、31年度オープンを目指している。場所については第1候補が道の駅北側の地熱調査をしているところ。用地を確保でき次第設計に入る。6次産業化推進協議会で協議している。

この冬の道路の傷みの原因

大町建設事務所管理課長の話では、冬の雨が原因と思われる。小さなひびに水が

特別会計予算 8億5,130万円 (審議は一般会計と同様)

区 分	29年度当初予算	採 決
国民健康保険特別会計	4億5,240万円	可決 (全員賛成)
国民健康保険診療施設特別会計	9,600万円	可決 (全員賛成)
簡易水道事業特別会計	8,950万円	可決 (全員賛成)
公共下水道事業特別会計	9,330万円	可決 (全員賛成)
農業集落排水事業特別会計	8,300万円	可決 (全員賛成)
後期高齢者医療特別会計	3,710万円	可決 (全員賛成)

1月臨時議会

件 名	内 容	議決結果
28年度小谷村一般会計補正予算 (第7号)	7億4,210万円の追加 81億2,300万円とする。 ふるさと応援寄付金増額	可決 (全員賛成)

2月臨時議会

件 名	内 容	議決結果
白馬山麓環境施設組合規約の変更について	白馬高校の支援 会計及び事務処理を一部事務組合で行う。	可決 (全員賛成)

3月定例議会 請願・陳情

付託委員会	件 名	提 出 者	審議結果
総務委員会	「共謀罪」創設に反対する意見書の採択を求める陳情書	大北地区労働組合連合会 議 長 小林 國弘	継続審議 (賛成多数)
総務委員会	「共謀罪 (テロ等準備罪)」に反対する意見書の採択を求める陳情書	日本国民救援会大北支部 支部長 松島 博	継続審議 (賛成多数)
総務委員会	給付型奨学金制度改善に関する請願書	大北生活と健康を守る会 会 長 太田 欽三 紹介議員 4番 曾根原恵子議員	趣旨採択 (賛成多数)
総務委員会	「共謀罪の新設について慎重な国会審議を求める意見書」提出に関する請願	速水 政文 紹介議員 4番 曾根原恵子議員	継続審議 (賛成多数)
総務委員会	オスプレイ低空飛行訓練の中止を求める請願書	速水 政文 紹介議員 4番 曾根原恵子議員	一部採択 (賛成多数)

議員発議

議員提出による発議	議決結果
予算特別委員会の設置について	可決 (全員賛成)
オスプレイの低空飛行訓練の中止を求める意見書 ・過去の重大事故の原因究明・低空飛行訓練の中止を駐留米軍に要請すること。 ・飛行訓練の実態を開示し、安全性や運用全般について関係自治体・地域住民に周知すること。 ・観光地、希少動物の生息地域、国立公園上空であることを考慮し、対策を講じること。	可決 (全員賛成)

3月定例議会 村長提出議案

議案は全て可決（全員賛成）

件名	内容
28年度小谷村一般会計補正予算（第8号）	5億6,900万円減額 総額75億5,400万円 ふるさと応援寄付金 3億3,000万円減 ゴミ処理広域化負担金 1億5,609万円減
28年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	900万円追加 総額4億7,070万円
28年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第2号）	130万円減額 総額9,310万円
28年度小谷村簡易水道事業特別会計補正予算（第4号）	260万円減額 総額2億4,970万円
小谷村移住おためし住宅の設置及び管理に関する条例の制定について	移住促進と交流人口増加を目的とした、移住おためし住宅の設置と管理に関し、条例を制定
小谷村税条例等の一部を改正する条例について	消費税増税の延期に伴う改正 村民税、固定資産税の納期の変更
小谷村個人情報保護条例の一部を改正する条例について	マイナンバー法の施行に伴う改正
小谷村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	非常勤消防団員損害補償の基準を定める政令の改正に伴う補償基礎額の改正
小谷村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	国民健康保険税の納期の変更
小谷村営水道条例の一部を改正する条例について	簡易水道統合による名称変更と料金表の改正
小谷村立学校施設の開放に関する条例の一部を改正する条例について	小谷小トレーニングルームの年間利用を申請日から1年間に改正
北アルプス広域連合ふるさと市町村圏基金に属する財産の一部処分の変更について	大北福祉会館の耐震大規模改修工事の財源の変更による基金取り崩し額の変更
大町市及び小谷村における北アルプス連携自立圏形成に係る連携協約の一部を変更する協約の締結の協議について	北アルプス広域自立圏の連携事業が増えたことによる連携協約の変更
大網農山村体験交流施設の指定管理者の指定について	指定管理者 くらして 代表 前田浩一 期間 平成32年3月31日まで
柵池ゴールハウスの指定管理者の指定について	指定管理者 柵池スキー学校 校長 淀 俊明 期間 平成32年3月31日まで
千国の庄史料館の指定管理者の指定期間の変更について	指定管理者 千国地区庄栄会 期間を平成29年3月31日までに変更
工事変更請負契約の締結について	伊折地区水路復旧工事 2,007万7,200円増額 相手:(株)鷺澤建設
小谷村土地改良事業の経費の賦課徴収の延期について	県営中山間地域総合整備事業 白馬乗鞍元廻工区 平成30年3月30日まで
小谷村特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	村長、副村長が管理監督責任を負い、減給処分（10分の1…5か月）
雨飾高原キャンプ場外1施設の指定管理者の指定について	指定管理者 おたり振興公社 代表 幾田美彦 期間 平成32年3月31日まで

委員会活動報告

総務委員会

白馬山麓環境施設組合

議会全員協議会

2月8日(白馬村)

白馬高校の支援事業を、白馬村の一般会計事業から、白馬山麓環境施設組合へ事業を移管するために、定款変更等を協議。(詳細は7P、特集参照)

白馬山麓環境施設組合

議会定例会

2月28日(白馬村)

28年度補正予算及び、白馬高校の支援事業が加わり、事業の実施が始まる29年度の予算等を審議する。クリーンコスモ姫川の、業務委託費軽減で、包括的業務委託契約を締結とする。(単年契約を5年に変更)

国保運営協議会

2月9日(小谷村)

28年度決算と、29年度予算を審議する。

繰越等多大な金額があるが、30年度の県への事業の移管後の詳細が不明のため、今秋頃、見通しが立った時期に、国保税の減額等も含め再度協議とする。事務簡素化のために、納付期を一部改正する。

経済委員会

大北農業振興推進協議会

1月24日

視察

信州せいしゅん村(上田市) 旧武石村で農村生活体験、都市農村交流に取り組んでいる株式会社。地域住民が運営主体で、行政から財政支援を受けず、交流事業をビジネスにしている。

等、問題点の確認をする。

(委員長 高橋 正宏)



新規認定商品試食会

(株)永井農場(東御市)

複合経営による大規模農家で6次産業を推進。有機リサイクルで資源循環形の水稲と酪農、直接販売で餅・ジェラート等の、6次産業化に取り組む。

農業パワーアップ研修会

2月15日(大町市)

信州おたり雪中キャベツ生産組合の「雪中キャベツ」が北アルプス山麓ブランドに認定された。

54プロ会議

2月21日(役場内)

小谷村小さな拠点構想の実現に向けた「おたり54プロジェクト協議会」を立ち上げた。医療・福祉・交通・農業・情報通信技術(ICT)各分野の連携をさせる。

地熱エネルギー会議

2月21日(役場内)

下寺地区に眠る、地熱エネルギーの活用により、

生業・雇用の創出。地域住民の安全・安心と豊かさ等、維持・発展に波及効果も大きい。

(委員長 宮澤 正廣)

議会改革特別委員会

第2回中間報告

検討事項

- 1・休日・夜間議会
 - 2・月1回以上の協議会
 - 3・村民との意見交換会
 - 4・議員出席枠の整理改革
 - 5・事務局体制の改革
 - 6・庁舎内に村民憩いの場
 - 7・庁舎内の議会中継
- 項目ごとに議論を深めている。

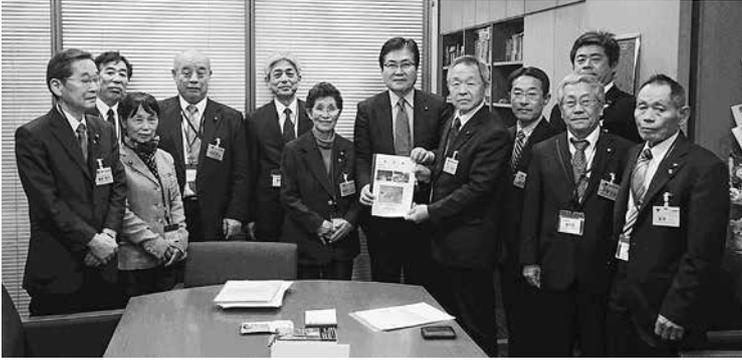
「村民との意見交換会」の実施に向け、全員協議会に報告・提案した。「村民憩いのスペース」は新年度予算化し、実現されることになった。ご意見等、お寄せください。

(委員長 横澤かつ子)

国道の安全対策を早期に

29年の国会要望

1月18日に、全議員で、関係国会議員を訪問。懸案事項のさまざまな課題を、要望書として提出した。



務台俊介議員と

上げ、残りを調査区間にし、強力に推進を。

○国道148号の整備促進
・雨中・月岡バイパスの早期進捗、塩水地籍の改良、外沢トンネルの安全対策を。

○姫川水系の整備と管理
・護岸、河床の安定対策、河川整備予算の確保を。

○砂防関係事業の促進
・砂防予算の確保、土砂災害の危機管理体制強化、砂防施設長寿命化拡充を。

○総合戦略事業の促進
・ハード事業の補助割合増、農山漁村振興交付金増を。

○地方議員の厚生年金加入
人材確保に地方議員の厚生年金加入の法整備を。

【提出先】

衆議院…務台 俊介 議員

高島 修一 議員

参議院…吉田 博美 議員

塚田 一郎 議員

○松糸道路の早期建設
・調査区間を整備区間へ格

白馬高校支援

募人数増加を見込んだ寮の整備等

○教育寮「しろうまパルハウス」は、隣地の法政大学セミナーハウス（3階建て）を、将来購入予定で賃借し、改修整備後、男子寮として活用する。

現在の寮は、入居者数が少人数のため、下宿をしていた女子用に女子寮として利用する。

また、舎監補助等に臨時職員を増員する。

○両村で運営する公営塾、しろうま塾を充実し、学力アップ、進学者増を目指す。

○スキー部補助、協力隊人員費等は、別枠で行う。

白馬高校支援業務を白馬山麓環境施設組合に移管

29年度より白馬高校支



左：女子寮

右：新たな男子寮

設置し、小谷村からも職員（臨時）を継続で派遣する。

来年、30年の夏には、広域のゴミ処理施設が稼働を始める予定で、白馬山麓環境施設は、広域リサイクルセンターに変わるため、今年度は現体制を補充して、白馬高校の支援事業を行い、その後は名称も含めて体制の検討を行う。

白馬でのゴミ処理は、あと1年半余りの稼働で、広域のゴミ処理施設に切り替わるため、6月から持ち込みの可燃ゴミ等も「指定袋」を使用。

援事業が、白馬村から小谷村・白馬村、両村設立の白馬山麓環境施設組合に移管される。

また、白馬山麓施設組合の、し尿処理施設（クリーンコスモ姫川）は、両村の下水処理施設も含め、維持管理の軽減化を図るため、検討を重ねている。

今後は、小谷村の負担率を33%とし、両村にとって、会計上も明瞭なものとなる。

事務室を白馬村役場内に

村政を問う

29年3月定例議会一般質問

【一般質問は、定例議会において質問通告書を提出し、1時間の制限で執行機関に疑問点や所信を問います。CATVで公開されていますが、議会傍聴に来ませんか。】

〈質問項目〉（質問順）

1、曾根原恵子	議員	①29年度予算 住民福祉向上を ②ふるさと応援寄付金を住民生活向上に	(9ページ)
2、横澤かつ子	議員	①29年度予算編成について ②空き家・危険廃屋の現状について ③白馬高校支援事業について	(10ページ)
3、藤原 賢司	議員	①雇用創出と産業育成について	(11ページ)
4、高橋 正宏	議員	①小さな拠点づくり事業について ②棚田サミット準備について	(12ページ)
5、宮澤 正廣	議員	①ハクババレー（フリーゲート）の成果は ②塩の道に関わる改良整備を	(13ページ)
6、太田 武彦	議員	①空き家の活用について ②特産品開発の取り組みについて	(14ページ)
7、小池 利治	議員	①新たな教育環境学びあい ②信州デスティネーションキャンペーンについて	(15ページ)

【* 一般質問のページは、質問議員が各自で作成をしています。】

「検討する」の回答はどうなったか？

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】

〈質問〉

[28年3月]

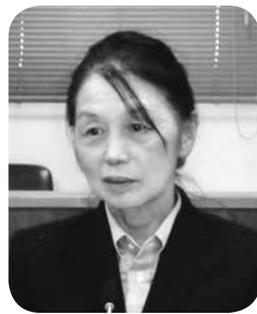
- 介護予防と日常生活支援が村の事業に利用者や家族への影響は 介護事業所の継続的・安定的運営を
- 介護資格、講習会等に補助を
- 森林セラピーロードにピクトグラムの設置を
- 集落活動・地域づくりに支援体制を

〈再回答〉

[29年3月]

- ◆ 4月から要支援認定更新者は順次切り替えられる。村独自の生活支援を「54プロジェクト」で検討中。
- ◆ 介護予防事業を委託し運営支援をする。「小さな拠点」では中核事業者として位置づけで検討中。
- ◆ 補助金交付要綱により支援。実績による増額改正も考える。生活支援・簡易業務は、広域連合の講習で、簡易な業務に従事できる。
- ◆ 景観規制もあり、インパクトが強い看板は村内に適さないと考え、必要性に応じ検討する。
- ◆ 活動費を支援する補助制度を今年度中に実施する。

新年度予算 住民福祉の向上に



曾根原恵子 議員

くらしを脅かす国家予算 自治体への影響は

問 軍事費が5年連続で増加し、社会保障、

文教、農業予算が削減されている。村財政への影響は。

答 村長 交付税配分の縮減傾向を見込み、

予算組みをしている。

問 4月から介護保険制度が変わり、一部が

村の運営となる。

入浴、送迎付きデイサービスを利用している方が、利用料の負担が変わるのかと心配されている。送迎は。

答 住民福祉課長 希望するサービスは継続して利用できる。移送サービス等は今年度中に整備する。

問 子育て・教育・雇用促進の今年度の新施策は。

答 村長 白馬高校支援・小中学校のパソコン・タブレット整備・スポーツ支援で圧雪車購入など。雇用促進では起業支援補助金がある。

ふるさと応援寄付金 安心・定住の村を

問 寄付の活かし方に村民は関心を寄せている。今年度事業の目的を問う。

答 村長 産業活性化対策・教育振興・観光事業推進のために活かす。

問 「豊かなくらし・村づくり」では新事業がなく、今までの事業を一般財源から寄付金財源に移行しただけだ。

答 事業総額がインフラ整備に偏っているのでは。くらしに密着した新事業を。

問 財源の中で行う。返礼品に対する考え方は。

答 村長 地域産業への還元を前提とし寄付金額の半額相当を返礼している。現在9割以上がモンベル(アウトドア企業)パウチャーポイントだ。



山里に春の訪れ — 安心、定住の村に

きるため。地域の品では、宿泊券、特産品・棚田米があり、「モンベルポイント」とセットで設定する。

問 山岳観光振興を「村長が推進する事業」とした理由は。

答 村長 当村の中心産業である観光を推進する。梅池自然園のビジターセンターの映像関連と木道整備などに1億1千万円充当する。

住民生活を豊かに 小谷特有のくらしに視点

(提案しました)

- ・福祉灯油を。
- ・福祉除雪作業の単価改善と屋根雪下ろし要員の若い世代育成を。
- ・住宅リフォーム整備事業の拡充。宿泊事業者への制度支援を。
- ・ゼロ歳児保育体制の充実を。
- ・高校生の通学費補助を。

29年度予算編成について



横澤かつ子 議員

問 29年度予算の基本方針は。

答 村長 小谷村第5次総合計画（後期）に並び、小谷村総合戦略の基本目標である。

- ①地域資源の活用による安定した雇用の創出。
- ②交流・定住による新しい人の流れの創出。
- ③結婚・出産・子育ての希望がかなう環境の創出。
- ④魅力ある安心で持続可能な村づくり。

問 新規事業は。

答 村長 主なものは①山岳観光整備・自然

園ビクターセンターの映像。木道整備。
 ⑤加工貯蔵施設整備・6次産業化推進協議会の運営。新商品開発。などです。

問 自主財源の確保は。

答 村長 大きな財源としてふるさと応援寄付金23億円と、村税5億3千万円。歳入の55%を占めている。

残りの45%は依存財源である。今後も自主財源の確保に努める。

問 空家・危険廃屋対策は所有者本人への連絡等、行政指導が必要と考

えるが村の考えを。

答 村長 今年2月に小谷村空家等対策推進協議会を発足し、危険廃

屋、解体撤去事業補助金（上限50万円）及び適正管理に関する条例に加え、特定空家を造らないための方策、本来所有者の方に撤去していただくのが原則であり、条例を有効に活用し、所有者自らが財産を適正に管理することを促したい。

問 白馬高校支援事業の負担割合は。

答 村長 白馬高校入学者数のうち村外を両村で2分の1ずつ、残りを白馬・小谷両村の生徒数の比率で負担する。

白馬2（67%）小谷1（33%）と定めている。

問 寮の整備・運営・賄いはどのようか。

答 村長 パルハウスは女子寮として、新たに東隣の法政大学セミナーハウスは男子寮として、2年間は借用し、3年目に取得することで大学側と合意している。

運営・賄いは3名の臨時職員を雇用し、食事については基本365日提供することとしている。

問 公営塾の運営は。

答 村長 講師3名、生徒数はおよそ50名。指導方法としては、生徒一人一人の個別学習で実施している。

リニューアルされた
ビクターセンター



雇用創出と産業育成を



藤原 賢司 議員

「小谷村第5次総合計

画・後期計画」の「いつまでも住み続けたい」「誰もが住みたくなる」元氣あふれる小谷村とは、言い換えれば人口減少を抑止することであり、人口減少を抑止するために大きくかわってくるのが、雇用創出と産業育成である。

問 ①小谷村の限られた生産人口の中で異業種間、特に観光、建設、農業の企業連携を図ること

で、経営基盤の強化・新分野への進出が実現可能であるが、企業連携に対する施策、支援策に対する考え方は。

②経営者の高齢化による廃

業などを背景に、後継者の育成は重要な課題であるが、同一企業種間で連携を図れば、一企業では難しい後継者の育成も、ある程度容易だが、今後の施策、支援策に対する考えは。

答

村長 企業連携による経営基盤の強化・

新分野への進出、後継者育成など望むところであるが、支援要望等は村には挙がっていないが、小谷村商工会へ確認したら、新分野への進出について、実際相談を受けており、すでに専門家と交え経営相談を進めているとのことから、期待したいと思う。村として統一的な支援策は無いが、商工会を通じて相談があれば、また企業が連携事業、新分野進出等に踏み出す場合に、村として支援が必要であれば対応していきたい。

問

①現在インターネットの普及で、情報や流通の分野では、都市部でなくてはならないといった必然性は消えつつあるが、IT産業以外の企業誘致で、新たな雇用を期待できると思うが、企業誘致の現状と実績は。

答

②企業誘致のターゲットとなる業種について、村長、担当課長に思うところはありますか。

村長 実績は川内地区の旧「おたりGA

C」一軒だが、安達グループによるコルチナスキー場、城西医療財団の北小谷のケアハウス等の運営進出があげられる。

小谷村の立地状況は企業誘致には厳しいが、このような条件下で、村は平成30年度から「特産品加工・貯蔵施設」の整備により、村民の雇用創出を図る計画である。

企業誘致は、企業進出の希望があれば対応したい。

問

計画している加工貯蔵施設は、交付金の交付条件もあると思うが、信州そばと同様に、信州のソウルフードである「おやき」の製造を取り入れることは可能か。

答

特産推進室長 加工貯蔵施設は、大北

農協・道の駅小谷・小谷村の3社出資を検討中、「おやき」の製造も検討中であり、31年度のオープンを目標に外部人材確保も含めて検討中だ。

問

おやき製造のノウハウをもった会社から、直接人材派遣を受けることは可能か。

答

特産推進室長 現在人材育成で食品加工施設に何人か派遣し、ノウハウを取得する人材を育成している。

現在村内の女性グループが取り組んでいる「ちやのこ」のノウハウ、企業からの派遣も含め29年度で検討したい。

問

建設業、農業、観光業の繁忙期が一緒で無いことから、異業種間の連携で、繁忙期の人手不足を補填し、厚生労働省の補助金制度があれば活用し、村の補助金補填も、小谷のような豪雪地には必要ではないか。

答

村長 村としてはそのような制度は考えていないが、国にそのような制度があるか調査し、働きかけが必要であればそうした。

異業種間の人材派遣は今までも行ってきた。雇用体制は契約があれば、雇用体制等は変わらないと思うが、実態を調査したい。



「小さな拠点」って？



高橋 正宏 議員

「小さな拠点づくり」 のこれからは

問 ①年度目標や基本的な考え方は。

- ②村民への周知の方法や、住民参加意識の盛り上げは。
- ③村民ニーズの把握に、聞き取り調査も必要では。

答 村長 ①「小谷版小さな拠点構築事業」

- の、おたり54(ごし)プロジェクト協議会では、
 - 協議会・幹事会の開催。
 - 小谷版小さな拠点設立
 - ・生活支援サービス検討
 - ・地域公共交通再編検討
- の各ワーキングを開催した。28年度末までに全体計画を策定する。



小さな拠点 建設候補地

新しい生活支援サービスの創造

基本的な考え方

- 限られた地域資源(人、仕事など)を有効活用するための再編事業。

- 拠点施設を活用し、民間組織が、官民連携による、介護保険頼みでない、サービス・ケアの体制を構築する。

- 協議会の運営と、住民参加ワーキングの開催(検討会)の開催。
- LM組織の設立検討。

- 光ケーブル網の調査・設計。
- 皆で考え担う、新しい移送サービス創出事業。

- 住民参加による講習会や、公共交通の利用体験。
- トレーラーハウスで、高齢者向け住宅のビジネスモデルを検証。

周知方法やニーズの把握

- 広報の掲載、CATVの活用。誰でも参加しやすい、ワークショップの開催。対象を絞ったアンケートの調査等。

【用語説明】

- LM: 地域に必要なサービスの総合調整役。(ローカル・マネジメントの略)

- トレーラーハウス・車型の、移動可能な滞在体験できる簡易住宅。

棚田サミットのテーマは

問 今秋の棚田サミットには、来年のパンフを配布すると思うが、テーマは。

早急に決定する

答 村長 まだ決まっていない。しかし、テーマや開催主旨の設定は、棚田サミットの骨格に関わる重要なことなので、開催日と併せ、早急に決定する。

問 里山や棚田の観光資源はどこを考えるか。

答 村長 現地見学会に、大勢の参加が予想されるため、場所は限られる。白馬乗鞍・元廻地区、中土の藤島地区や、他にも美しい棚田はあるが、案内は立地条件の良い場所となる。難しい棚田や集落

- の取り組みは、パネル展示等で紹介したい。

問 白馬高校生のサミット参加や、スタッフとしての活動は。

また、大学生の参加やスタッフへの依頼は。

白馬高校はお願いしたい

答 村長 白馬高校にはぜひ、お願いしたい。大学生の参加は、例えば東京農業大学は、スタッフや事例発表・パネル展示等、ブースの出演を希望することもできると思う。

問 お祭り騒ぎでない、地味でも小谷村らしい、問題提起のできるようなサミットを目指すべきでは。

小谷村らしいサミットにしたい

答 村長 小谷村らしいサミットが開催できるように、実行委員会等で詳細を詰めていきたい。

ハクババレーフリーゲートの成果は



宮澤 正廣 議員

問 フリーゲートシステムのメリット・デメリットは。

答 村長 メリットは共通券により特に長期滞在者がエリア内スキー場を自由に選び、楽しんでいただける環境が整備された。このことはサービスの向上アピールになった。また、発券所でハクババレーエリア共通券の扱いが統一のICカードになったため、お客様の流れがスムーズになった。精算業務が容易になった。デメリットは、索道事業者のコストがかかることがあげられる。

問 今シーズンの入り込みと今後の課題は。

答 村長 2月末現在、小谷村では33万5千83人、前年度対比100・74%でシーズンインは雪不足のため、また、導入初年度であったことなどから効果を数字で判断ができない。課題としては、統一のICカードを利用し誘客事業に利用できる顧客情報収集システムを追加機能として整備を行う。ICカード

へのチャージシステムと、その情報を集約、分析するシステムを整備中、また統一ICカードでのシャトルバスやアンケートシステムなどの整備、索道事業者とともにフリーゲートシステム統一ICカードの効果をも最大限に引き出し誘客に利用していく。

塩の道に関する改良整備を

問 現在の木柱から石柱に変えていくことは。

答 村長 平成29年度予算では試験施工として損壊の多い大網峠越コースの木柱を石柱に替える計画をしている。これらを元に設置場所に応じた石柱の大きさや高さ、運搬方法など課題を整備し、必要などころから順次建て替えを考えた。

問 国の史跡指定には。

答 村長 糸魚川市は長野地区中山峠1・3kmと根知地区山口古道3・

3kmでいずれも糸魚川市の申請で平成14年度3月に国の史跡として指定された。小谷村も昨年7月に文化庁の調査官においていただき、県境から大網峠を越えて、大網までの区間の現地調査を行い、アドバイスをいただいた。史跡に向けて指定する範囲を特定すること、また文化財としての価値を証明することの2点が重要で、範囲の指定については古い絵図や文献での調査や測量などを実施する必要があり、ぬかるみなどの歩きにくい道や危険箇所には最低限の整備が必要である旨の提言をいただいた。

千国街道が現代においてより重要な史跡であることを再認識することが大切であるとアドバイスをいただいた。このため新年度予算にも計上し、街道沿いの文化財調査を専門家に依頼して計画的に行う。村民の皆さんとともに知識を深めながら史跡指定に向けた環境づくりを図っていく。

問 塩の道に関する経費と参加料徴収は。

答 村長 昨年の総経費は413万879円

だった。また、参加料徴収は過去に検討した経過があるが、約3,000人を超える多くの参加者のため、相当の時間差等で、また休憩所での地区住民の方々の心温まる振る舞いなども格差が出てしまうなどから、平成21年度から塩の道祭りから寄付金という形で協力してもらっている。平成28年度の寄付金は、28万7千円をいただいた。今後も寄付金の形を考えている。



フリーゲートシステム



桜満開の塩の道

空き家の活用は



太田 武彦 議員

問 特定空き家対策はどのようにするか。

答 村長 特定空き家の措置は、「立入調査」、「助言または指導」、「勧告」、「命令」、「行政代執行」の順で改善を促す。

代執行は、文書による戒告を行い、従わないときは、「代執行命令書」で通知する。

代執行の対象となる空き家に価値ある動産がある場合、運び出すよう公示し、連絡がない場合は、期間を定めて引き取りに来るよう公示する。

なお、代執行に要した一切の費用は、空き家の所有者が負担する。

問 特定空き家以外の空き家について、今うちに対策する必要がある。対策はどのようにするか。

答 村長 空き家の有効活用で、都市住民との交流拡大、移住、定住の促進により地域活性化が図られる。

まずは空き家バンクに登録いただきたい。

今、バンクへの登録数は4軒。紹介する物件が少ないため、成約困難な状況が続いている。

空き家の流通を促す観点から、「空き家家財道具等処分補助金制度」を使いやすくする。

また、老朽化を防ぐため、建築業者協会等により建物管理サービスが行われている。

問 空き家は大きな資産であることから、そ

の活用策は。

答 村長 すでに農山村交流施設（ゆきわり草、つちの家）としての整備。このほど移住お試し住宅（土倉、深原）を整備した。

また、次年度は空き家を活用してのメディア・シェアオフィス整備に着手する。これらの事業を検証し、進めていく。



空き家の有効活用を

特産品開発の取り組みは

問 現状と今後の取り組み計画について。

答 村長 課題は、現状の「山菜加工場」の

設備、老朽化が進んでいる。

特産品流通、販売の中心施設である「道の駅小谷」

での農畜産物、加工品などの保存場所、貯蔵施設の不足等であり、この課題と村が進める加工・貯蔵施設等の整備を組み合わせることにより、産業振興・経済効果が期待できることから、大北農協・道の駅・村が出資し、法人を設立し運営する。

年間を通じ地元食の提供による交流人口の増加、商品開発による仕事の創出、年間雇用の確保による移住・定住の受け入れ等を目指した取り組みを進める。具体的には、需要対応型6次産業の考え方で、「マイブランド商品の製造」、「地域資源を活用した1次加工品の製造」、「地元、地域の需要に応える受託加工」の考え方で検討している。「小谷漬」「山うどの木の葉漬」をオープン時の収益の軸とし、道の駅商品を製造。新商品としておやき、そば等



資源を活用した山菜加工場
(古美里と特産品開発センター)

山うど、大根、人参等の栽培、出荷で、原材料の確保、農業所得の拡大や、観光サービス業、商業との連携によりモノ、カネの地域内循環を期待している。

の製造を検討している。また貯蔵施設では急速冷凍の技術導入等検討している。29年度に詳細設計、30年度に整備工事、31年度オープンを目指す。

また、自分たちで加工品を製造・販売を行う方は、「小谷地区活性化施設 古美里」を活用していただきたい。

新たな教育環境学びあい



小池 利治 議員

問 今、学校現場で注目を集める「アクティブ・ラーニング」学びについて、教えと対応は。

答 教育長 この「アクティブ・ラーニング」の授業形態の基本は、少しでも多くの児童、生徒が主体的に学校課題に取り組めるよう4〜6人程度のグループに分かれて授業参加することを中心に意図している。この試みは、今までの教授形の授業から一歩踏み出、一人ひとりの能力の差を縮める有効な学び合いの授業形態として、現在の学習指導要領の中に取り込まれている。このため、最近の授業ではアクティブ・

ラーニングの学習形態をとることが以前より多くなってきた。このような学習を「協働の学び」と呼び、各小中学校ではこうした学びの場を取り入れ、深い学びを目指すことにより学習効率の向上につなげようと考えている。

これまでの教師が主体となる講義形式の授業から児童、生徒による学習者主体の能動的な学習場面を取り入れることで、学習効率を上げようとするものであり、授業改善の一つの手法である。

問 信州型コミュニティスクールの進捗状況と、今後の見通しについて。

答 教育長 この小谷学校園運営委員会を立ちあげてみての一番のメリットは、職員にあったと思う。保小中の先生方が合同職員会議を通じて共有でき

た情報や知識は多々あるの、保育園、小中学校ともにさらに充実した指導をこれから心がけていく。また、29年度からは委員が授業参観等の折には校長室に立ち寄って学習や地域での子どもたちの様子について自由に意見交換ができる機会を設け、学校と地域とが一体となり、児童生徒を取り巻く課題を共有することで、子どもたちをより健全に育てていきたいと考えている。

問 このDCに合わせた独自のプランを何点ぐらい企画して取り組んでいくのか。

答 村長 信州DC実行委員会が行う新しい取り組みとしては、山の信州子ども体験塾（仮称）が予定されており、観光連盟としては柵池自然園でのトレジャーハンティング、星空ウォッチングツアーなど15ツアーを村内の諸団体の皆様方にご協力いただき、受入地としてエントリーした。また、例年開催している砂防ダムツアー、秘境真木ツアーなど企画、さらに南小谷駅での着地商品として伊折地区での小さな里山で田舎体験をビュー商品として販売していく予定。今回のDCを多くの方々に信州はもとより白馬山麓小谷の情報を発信していく。

答 村長 ビジターセンターについては、概ねの施設整備ができておりDCに間に合わせるべく6月1日の自然園開園にプレオープンとして、映像コンテンツを整えたうえで7月18日グラウンドオープンとする予定。

なお、木道の改修工事が予定されているが、特にみずばしような湿原のバリアフリー部分の木道改修については早い段階で利用できるよう進めていく。



小谷中学校卒業式

信州デスティネーション キャンペーン(DC)

問 柵池のビジターセンター、自然園木道改修など振興対策、施設整備はいつごろから稼働予定か。



夏の柵池自然園

わたしのひまわり

オタリンク会長 小林 慶士
(25歳独身)

私達OTARI-nkは小谷村への愛村心がある20〜30代の若者30人程で結成された青年会です。村の人口減少や高齢化に歯止めがからない中、「次世代のためにもう一度自分たちの故郷を知り、地域の発展に寄与しよう」という思いで結成されました。

平成28年度の活動内容としては村内各種イベント協力、スキー大会(オタリンピック)企画運営、ふるさとCM大賞応募、婚活イベント(大人の休日inOTARI)企画運営といった内容でした。今はまだ、小



小谷を繋ぐOTARI-nk (オタリンク)

さな事しかできていない現状ですが、来るべき時に向けて地道に準備をしています。そのためにOTARI-nkをもっと多くの人に知ってもらい、ブランド化を目指します。小谷村の今後の発展を目指し、共に闘っていただける方はぜひ入会をお願いいたします。

直売で感じたこと

伊折 福永 朋子

雪中キャベツを直接お客さんに販売する機会があった。収穫し、車に積み込み、自分達のアイディアで、ディスプレイする。そうして雪中キャベツに価値を感じてくださるお客さんに買って頂ける。

私がこれまで経験してきた農業は大量生産、大量出荷の世界で、取引業者の先に最終的なお客さんがいると知っていても実感できなかった。

ところが自分で売ると、そうはいかない。お客さんの価値観はさまざまで、風土を楽しみむこととか、持ち帰り易いとか、安心だとか、求めるものは十人十色。私たちのキャベツはお客さんの求めを満たすことができるのか、どう説明すれば価値が伝わるか、一人一



キャベツ直売中 (左側筆者)

人考えながら接客するのはなかなか難しい。だがキャベツを買ってくださったお客さんの笑顔を見て、自分達が価値のある野菜を育てていると実感することができるともやりのある仕事である。

早く一人前の農家になりたい。お客さんが価値を見いだせる野菜を、誇りを持って育てられる人になりたい。

編集後記

本年は2年続きの雪不足の中、新年が始まりましたが1月は予想に反して毎日の降雪があり、冬の産業面の心配はそこそこ解消されたかと思えます。

3月に入り、日差しも少しずつやわらぎ春の訪れを感じます。

さて、3月定例議会も閉会し、平成29年度事業等の予算が盛り込まれました。現議員の任期も残すところ1年余りとなり、特に村民主役の視野に立ち、村作りを進めてまいります。

小谷村議会も村民の皆様から、今後も情報発信をしながら、また村民の皆様からもご意見等をお寄せいただきながら、より良いものを目指していきますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

小さくても輝く村づくりを目指します。

(宮澤 正廣 記)